



株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード: 5911

株主通信

2025年11月



YBHD NEWS No. 70



代表取締役社長 高田 和彦

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに株主通信「YBHD NEWS」第70号をお届けいたします。

当中間連結会計期間は、売上高は当初想定をやや下回りましたが、営業利益は当初想定どおりの水準を確保することができました。橋梁事業の売上高は、前年同期が過去最高であった反動と、手持ち工事の状況から減収となりました。システム建築事業は、一定の生産量を確保できたため増収増益となりました。エンジニアリング事業は、売上高は増収となりましたが、営業利益は伸び悩んでおります。

受注状況につきましては、橋梁事業は、今期は発注量も少なく、厳しい受注環境が続いておりますが、高い受注確率により、シェアは堅調に推移しております。また、海外案件として、バングラデシュの大型ODA案件を受注し、現地対応拠点としてダッカ支店を開設いたしました。

システム建築事業につきましては、ターゲット市場の低迷が続いておりますが、見積依頼と設計依頼は堅調を維持しており、下半期では一定の受注回復を見込んでおります。また、昨年度設置した戦略営業室についても成果が表れ始めており、さらなる受注拡大につなげてまいります。

エンジニアリング事業につきましては、旺盛な需要を受けて、建築・機械鉄構事業の受注が好調であり、事業全体としても概ね想定どおりで推移しています。

通期の見通しとしましては、上半期のシステム建築事業の受注が伸び悩んだため、通期の売上高を当初予想の1,620億円から1,590億円に修正いたしました。一方、営業利益については、120億円の前回発表予想を確保いたします。

株主還元につきましては、機動的な自己株式の取得により、着実に株主還元を拡大するため、2025年度から2027年度の3年間で70億円以上の自己株式の取得を計画しており、初回として、7月28日に20億円の取得を発表し、10月末で10億円の取得を完了いたしました。

また、配当方針につきましては、D O E 3.5%以上を目標とする累進配当を継続し、増配基調の維持を目指してまいります。この方針を踏まえ、2026年3月期の一株当たりの配当金は120円を予定しており、2025年3月期と比較してプラス10円の増配となります。

今後も持続的に成長できる企業グループを目指し、一丸となって努力してまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2025年11月

当社グループ全体の業績は、売上高は当初想定をやや下回りましたが、営業利益は当初想定どおりの水準を確保することができ、前年同期比減収増益となりました。

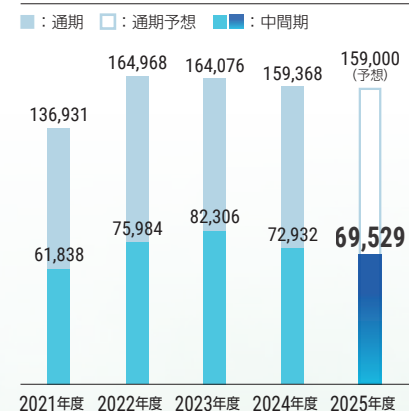
事業別では、橋梁事業につきましては、手持ち工事の状況から前年同期比減収減益となりました。

システム建築事業につきましては、一定の生産量が確保できたことにより増収増益となりました。

エンジニアリング事業につきましては、売上高は増収となりましたが、営業利益は伸び悩みました。

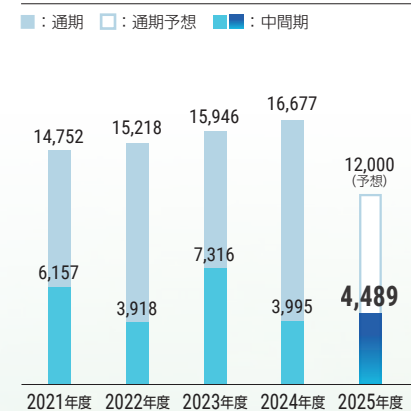
売上高

(単位:百万円)



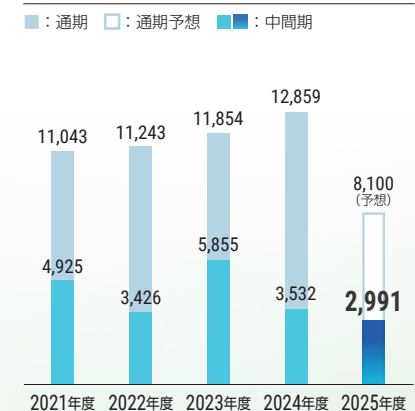
営業利益

(単位:百万円)



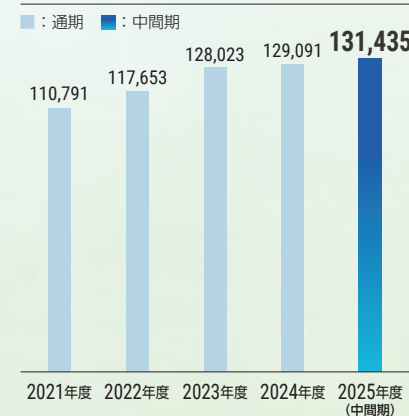
親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



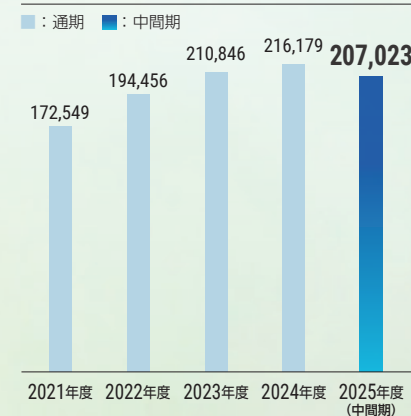
純資産

(単位:百万円)



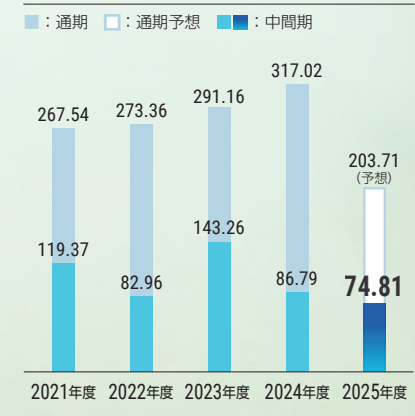
総資産

(単位:百万円)



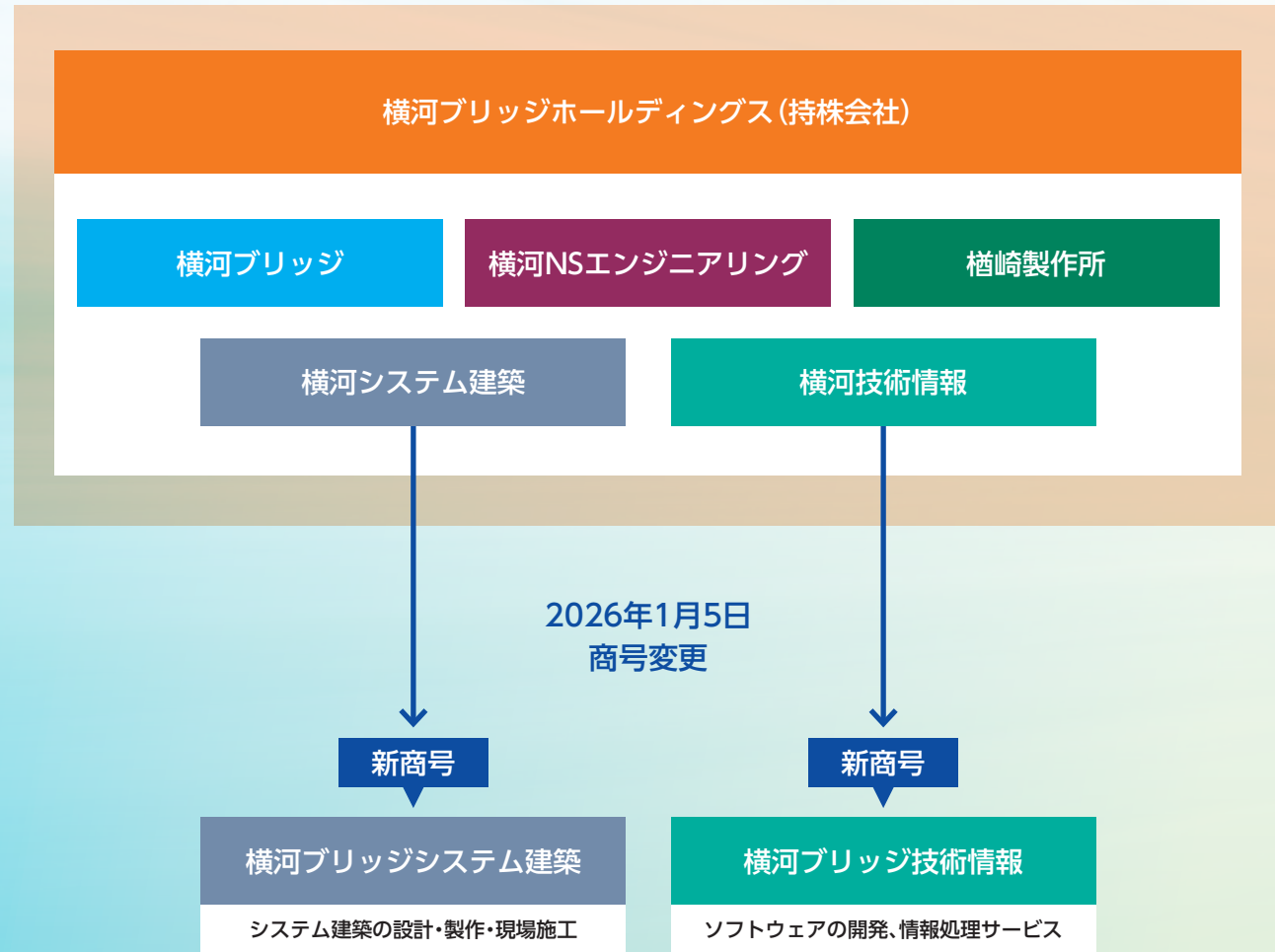
1株当たり当期純利益

(単位:円)



01 連結子会社の商号変更に関するお知らせ

当社は、グループのさらなる事業成長のために「横河ブリッジ」のブランド強化を進めてまいります。その一環として2025年8月25日に株式会社横河システム建築と株式会社横河技術情報の商号変更を行うことを発表しました。新商号として「横河ブリッジ」を冠することで、グループの一体感を醸成しブランド効果を最大化してまいります。



02 土木学会田中賞(技術部門)を受賞



施工中の新濃尾大橋

株式会社横河ブリッジが開発しました「後方回転・自走式手延機解体装置」が、令和6年度土木学会田中賞(技術部門)を受賞しました。「土木学会田中賞」は1966年度より橋梁・構造工学に関する優秀な業績に対して授与されている学会賞であり、この度受賞した「技術部門」は2022年度に新設され、橋梁工学の発展に寄与する優れた技術に贈られるものです。今回受賞した「後方回転・自走式手延機解体装置」は、施工時に河川などの自然環境に影響を与える仮橋や台船を使わず、安全性を向上させながら河川内や都市部など施工条件が厳しい現場でも活用できる画期的な工法であり、新濃尾大橋上部工事において本工法が採用されました。なお、本技術は国土交通大臣表彰である「国土技術開発賞」も受賞しています。



田中賞の表彰状

03 「富士山河口湖ピアノフェスティバル2025」に参加

ピアニストの辻井伸行さんをピアニスト・イン・レジデンスに迎えた「富士山河口湖ピアノフェスティバル2025」が開催されました。

当社グループは、本フェスティバルで使用する河口湖ステラシアターの開閉式屋根を株式会社横河システム建築が施工したご縁で、企業版ふるさと納税という形で2021年より支援を行っています。

今年も当社グループ社員がボランティアとしてイベントに参加し、配布物の準備や会場の片付け、お客様のご案内といった運営サポートを行い、地元の方々と親睦を深める機会となりました。

今後も、当社グループの事業を通して、本フェスティバルやさまざまな地域貢献の取り組みを積極的に行っていきます。



河口湖ステラシアター



ボランティア活動の様子
パンフレット封入(上)
パンフレット配布(下)



完成したカイトックススポーツパーク (左) 開閉屋根が開いている状態



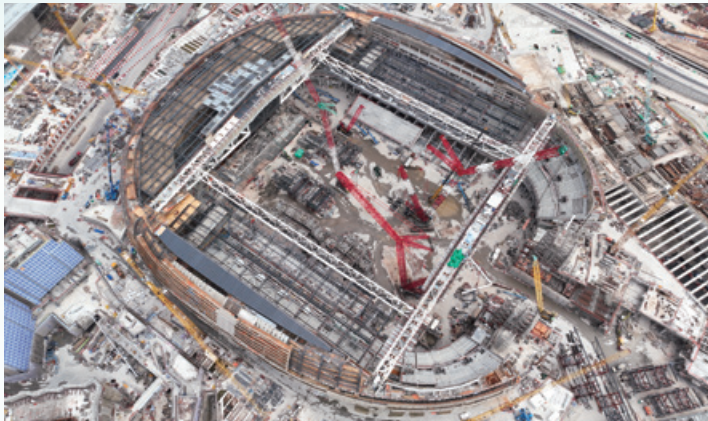
(右) 開閉屋根が閉じている状態

2025年3月にオープンした香港最大級の複合スポーツ施設である香港カイトックススポーツパーク(啓徳体育館)において、株式会社横河システム建築は、メインスタジアムの開閉屋根駆動機構の設計、製作、現場施工を請け負いました。

株式会社横河システム建築の可動建築は、これまでプール、運動場、大型スタジアムなどの170以上の施設に採用されております。そのなかでも開閉屋根は、全天候対応による利用機会の拡大や騒音の低減といったメリットを提供してきました。

2020年に受注した本工事では、コロナの影響や国際規格への適合など、さまざまな困難に直面しましたが、過去に取り組んだ大型スタジアム開閉屋根の経験を活かして、これら乗り越えました。特に検査においては、モックアップ試験などの各種試験や100回以上の試運転を実施することで問題がないことを確認し、無事完成に至りました。

今回、このような多くの課題を乗り越えたことで、開閉屋根の技術を少なからず継承できたと考えています。そして、その技術と今回の最大プロジェクトを実績として、次の大きなプロジェクトを受注できるよう邁進し、当社グループの企業価値の向上に努めてまいります。

(上) 工事の様子
(左) 自動開閉屋根の調整作業中

株式情報および役員一覧 (2025年9月30日現在)

Stock Information & Executives

株式の状況

発行可能株式総数	180,000,000株
発行済株式総数	43,164,802株
株主数	25,076名

大株主 (上位10名)

株主名	所有株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	5,293	13.16
(株)日本カストディ銀行(信託口)	3,058	7.60
日本製鉄(株)	1,987	4.94
横河電機(株)	1,676	4.16
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	1,410	3.50
横河ブリッジホールディングス従業員持株会	983	2.44
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	735	1.83
RE FUND 107-CLIENT AC	595	1.48
日本生命保険相互会社	543	1.35
(株)SBI証券	458	1.14

(注) 1. 当社は、自己株式を2,960,248株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株主優待制度

当社は、株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、今後とも多くの株主の皆様に当社へのご理解とご支援をいただき、中長期的に当社株式を所有していただくことを目的として、株主優待制度を導入しております。

贈呈品

株主様の当社株式保有状況	贈呈品
1,000株(10単元)以上を保有の株主様	クオカード 1,000円分を贈呈
1,000株(10単元)以上を5年以上保有の株主様	クオカード 1,000円分を加算して贈呈

贈呈対象株主様

毎年3月31日現在の当社株主名簿に、記載又は記録された株主様のうち、1,000株以上ご所有の株主様を対象に実施しております。

役員一覧 (2025年9月30日現在)

代表取締役社長	高田和彦
代表取締役専務執行役員	中村譲
取締役常務執行役員	宮本英典
取締役執行役員	湯川雅之
社外取締役	黒本和憲
社外取締役	天野玲子
社外取締役	神野秀磨
取締役常勤監査等委員	廣川亮吾
社外取締役監査等委員	尾崎聖治
社外取締役監査等委員	渋谷晴子
社外取締役監査等委員	梶山園子
常務執行役員	小林明
執行役員	梶宏人
執行役員	生越寿昭
執行役員	高藤伸治
執行役員	光田浩
執行役員	中岡康次
執行役員	春日井俊博
技監	石井博典



贈呈基準日および送付方法

毎年3月31日を基準日として年1回実施いたします。なお、クオカードについては6月下旬の定時株主総会決議通知に同封し発送いたします。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年3月31日
基準日	期末配当 毎年3月31日
	中間配当 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00 (土・日・祝日および12/31~1/3を除く)
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	https://www.ybhd.co.jp/



表紙の写真

新濃尾大橋

新濃尾大橋ができるまでを
見られる動画はこちら▶

所在地：愛知県一宮市東加賀野井～岐阜県羽島市下中町
鋼重：(1号橋) 1,490t (当社グループ施工分)
(2号橋) 1,315t (当社グループ施工分)
形式：(1号橋) 鋼5径間連続箱桁橋
(2号橋) 鋼4径間連続箱桁橋



新濃尾大橋は、愛知県一宮市と岐阜県羽島市を結び、一級河川木曽川を渡河する全長759mの橋梁です。1号橋 (A1-P5:5径間連続箱桁) と2号橋 (P5-A2:4径間連続箱桁) の2橋に分かれており、2橋とも送出し架設工法により施工し、2025年5月24日に開通しました。2橋とも愛知県より優良工事として表彰され、2号橋において新たに開発した「後方回転・自走式手延機解体装置」は、土木学会田中賞 (技術部門)、国土技術開発賞 (優秀賞) を受賞しました。



株式会社 横河ブリッジホールディングス

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番4号
TEL. 03-3453-4111 (代表) <https://www.ybhd.co.jp/>



当社ウェブサイトのご案内



トップページ

当社事業だけでなく、IRやサステナビリティ、ガバナンスなど、より充実した情報を株主の皆様にお届けしてまいりますので、ぜひご覧ください。



アクセスは
こちらから

<https://www.ybhd.co.jp/>

株主の皆さまの
声をお聞かせください

コエキク

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

右記QRコードにアクセスいただき、
表示されるアンケートサイトにて
ご回答ください。

スマートフォンから
カメラ機能で
QRコードを読み取り



QRコードは株式会社デンソーウェア
の登録商標です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝を呈呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社アノエクス提供の「コエキク」サービスにより実施いたします。
<https://www.pronexus.co.jp/>
アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」
koeikuk@pronexus.co.jp